

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援BOXらじあぼ		
○保護者評価実施期間	令和8年1月19日		～ 令和8年2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22世帯	(回答者数) 17世帯
○従業者評価実施期間	令和8年1月19日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どものことを十分に理解し、子どもと保護者様のニーズや課題に合った支援がされている。	日頃から、適宜スタッフ間で子どもの情報共有を図り、目標や目的、発達段階を共有し、個別支援計画を作成している。共通認識のもと、支援計画に沿った支援を心掛けている。	現状、送迎等の関係で全スタッフが一堂に会する時間が少なくなっているため、全てのスタッフが集まれる時間の確保を検討している。それによりより密な情報共有を目指し、よりよい支援へ繋げていく。
2	日頃から子どもの状況を保護者様と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解がされている。	連絡ノートや季節ごとの便り、送迎時に情報共有がきちんとできるように意識している。また、内服変更や発達検査等の関係機関からの情報をいただけるようお願いしていることで、情報の共有ができるようにしている。	現在、より密な情報共有を目指し、連絡ノートのフォーマットを検討している。また、面談や電話相談を積極的にアナウンスしていくための取り組みを検討中。
3	子どもが安心感をもって楽しく通所できている。	日々子どもが楽しく活動やリハビリができるような環境設定、支援プログラムの検討を皆でしている。また、集団と個別を使い分け、個々に合わせた活動や支援を心掛けている。	支援の質を高め、より子どもやご家族に安心して楽しく通所していただくために、内部・外部含め職員研修等の機会を増やせるような運営の仕方を検討している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会やきょうだい児向けのイベントが開催されていない。ご家族に対するペアレント・トレーニングや研修会、情報提供の機会が少ない。	保護者会やイベントに関しては、他の機関で開催されていることも多く、ご要望が少ない。情報提供に関しては、掲示などの方法で提供しているが公平を期すため一部の情報だけを積極的に発信できない。	保護者会等に関しては、今後ご要望を確認していく。家族やきょうだい児支援に関しては、各家庭より相談があれば情報を提供していくか検討する。
2	放課後児童クラブや児童館との交流、地域の他の子どもと活動する機会が少ない。	医療的ケアを含め、安全に安心して地域へと気軽に活動の幅を広げるのが難しい子どもが多く交流機会を設けることが難しい。	隣接する通所リハビリの施設の利用者との交流を通して地域の方との交流機会を設けている。また、祝日など限定的にはなるが児童館の利用などを検討し、地域交流の機会を増やしていく取り組みを検討している。
3	各種細かいマニュアルや非常災害等の発生時に備えた避難訓練の実施内容が周知できていない。	事前に訓練予定日の周知不足また、季節のお便りで実施報告等を行っている為、報告のタイミングが遅くなっていたり、見逃されていることがある。	季節のお便りへの記載だけでなく、連絡ノートや口頭等で事前周知や報告を行うように改善する。